

第一節 廃娼運動と市民的女性運動の融合

●本書より

第一編で考察したような廃娼運動における芸娼妓への「職業婦」観、大日本帝国の海外膨張への支持、同胞下層階級の女性より英米の中上流階級の女性、とくに兵士の母親たちに親愛を抱く傾向といったものは、一九一〇年代以降も変化はない。一〇年代以降に新しい要素や変化が示されるのは、一つは、欧米流の優生学に基礎をおいた売春観と社会統制観の受容・共鳴、もう一つは、勃興してきた新しい女性運動と廃娼運動の連携が生まれ、イデオロギー的に融合してゆくことにあるだろう。本節においてはこの二つを考えてみたい。

1 優生学的売春観

一九一〇年に出版された海野幸徳の『日本人種改造論』をはじめとして、一〇年代は新しい遺伝学や優生学の知識がさかんに米国から輸入された時期である。安田徳太郎はこの時期を回顧して、以下のように分析している。「私も当時流行の遺伝学のファンとなり、ゴルトン、トムソン、ダベンポート、モルガン、ジョンソン等々と英語遺伝学を読みまくった時代があった。確かに遺伝学や優生学は欧州大戦時の日本の好景気時代の一流行であつて、その流行の根底をなすものは、遺伝学が当時のいわゆる上流階級と知識階級の階級理論として役立つからである。吾々は優秀階級である、といふのは遺伝質が優秀

『朝日新聞』(1938年2月4日付)より

「山川菊栄賞」が藤目ゆきわんが女性問題についての調査、研究に贈られる今年度の「山川菊栄記念婦人問題研究奨励金」(山川菊栄賞)が、藤目ゆきわんの「性の歴史学」公娼制度・堕胎罪体制から娼(こうちゆう)制度・墮胎(たうたい)罪体制から売春防止法・優生保體法に決まり、このほど東京で贈呈式があつた。奨励金は、大正から昭和にかけて活躍した女性運動家・山川菊栄にちなみ、山川菊栄記念会が十七年前に設けた。藤目さんは一九五九年生まれで、大阪外国語大学助教授。選挙委員長の井上輝子。和光大教授は「廃娼運動や売春防止法の問題点などを、階級や民族の視点も導入して分析した作品。議論を呼び起している点から評価された」と語つて

●本カタログ中の表示価格は、全て本体価格です。
●弊社は注文制です。
●お近くの書店に注文ください。
不二出版
東京都文京区西目黒一丁目二丁目
TEL03(33811)4433
TEL03(33811)4433
FAX03(33811)4433
振替0016011994084

注文カード	
帖合・貴店名	
注文数	不二出版 電話03(3812)4433
ご担当	藤目のゆき 著 性の歴史学 公娼制度・堕胎罪体制から 売春防止法・優生保護法体制へ
ISBN4-938303-18-3 C3021 ¥4800E	定価=4,800円+税
年 月 日注文	様
お客様名	

キリトリ線

性の歴史学

公娼制度・堕胎罪体制から売春防止法・優生保護法体制へ

- 藤目ゆき 著
- A5判・並製・四四八ページ
- 定価(本体四、八〇〇円+税)

近代日本は性と生殖を統制する必要に迫られていた。
身体のみクロ政治学と国民国家のマクロ政治学とを架橋する労作。

——上野千鶴子

97年度 山川菊栄賞 受賞



不二出版

「性と生殖」という側面から日本近現代女性史を切り拓く先駆的な仕事 ● 脇田晴子

本書は、藤目ゆきさんが、京都大学に提出された博士論文であり、十年來の研究の成果の結晶です。本書の収録論文には、アメリカでの国際学会の報告や、学術誌にその英訳が掲載されて、評価の高かったものも含まれています。日本の新聞や雑誌に新しい動向として紹介されたものもあります。しかし、本書をまとめるにあたって、彼女がもつとも苦心したのは、単なる個別論文としての集積ではなく、「性と生殖」という側面から近現代女性史の全体像を鮮明に描きだそうということであったと思います。今、本書を読むと、その目標は十分に達成されています。

序章において著者が提起した女性史の視点と方法論は、近現代のみならず、女性史研究全体にとつて、大きなインパクトを与えるものだと思います。女性史、またはジェンダー史のなかでは、性と生殖というものの考察が大きな部分を占めるのはいうまでもなく、研究者の間では広く認められ、注目されており、これからはかかる視点が大きな潮流をつくるだろうと思います。著者の仕事はその先駆であり、それを大きく前進させるものであることは疑いありません。

(わきた・はるこ 滋賀県立大学教授・『女性史学』編集長)



●『性の歴史学』目次

序章 視点と方法について

研究の視点——第二次フェミニズムと海外の女性史研究より 先行研究と本稿の論点 「性」・「階級」・「民族」の統合のために

第一編 性・生殖統制の始動

第一章Ⅱ 欧米の公娼制度と廃娼運動

欧米の売買春制度 欧州における廃娼運動と反娼運動の展開 米国内における廃娼・反娼運動

第二章Ⅱ 近代日本の公娼制度と廃娼運動

近代日本の公娼制度 近代日本の廃娼運動

第三章Ⅱ 墮胎罪体制

墮胎罪の成立 性に対する統制 人民のくるしみ 性・生殖統制への抵抗の萌芽

第二編 大正デモクラシー期の社会運動と公娼制度・墮胎罪体制の動揺

第四章Ⅱ 被差別部落の女性と婦人水平社

二つの「解放会」と部落の女性 部落と売春・産児制限をめぐる言説 婦人水平社 婦人水平社と無産女性運動

第五章Ⅱ 全関西婦人連合会

全関西婦人連合会の構成 連合会の形成 全関西婦人連合会のネットワーク キング 柴原浦子と平岡初枝 全関西婦人連合会の侵略戦争協力 全関西婦人連合会と融和運動

第六章Ⅱ 欧米の産児調節運動

はじめに——新しい倫理・新しい運動へレーネ・シュテッカーと

新しい倫理 ロシア革命と新しい倫理 英米の産児調節論者と第五回

新マルサス主義・産児調節国際会議

第七章Ⅱ 戦間期日本の産児調節運動

柴原浦子と産児調節 二〇年代の産児調節運動 昭和恐慌下の産児調節団体 産児調節運動への弾圧

第八章Ⅱ 戦間期の「接産婦」とその運動

女性労働の変容 女給とその運動 芸妓とその運動 娼妓とその運動

第三編 性・生殖統制の現代的再編成——売春防止法・優生保護法体制の成立

第九章Ⅱ 市民的性運動と廃娼運動

廃娼運動と市民的性運動の融合 「軍隊慰安婦」の連行と純潔報国運動 占領軍の女性に対する暴力 市民的性運動の米国観と売春禁止運動

第十章Ⅱ 優生保護法体制

米国産児調節運動の変質 日本の戦時人口政策と産児調節論者 優生保護法の制定 国際家族計画運動への統合

第十一章Ⅱ 赤線従業員組合と売春防止法

戦後の性風俗産業と労働者 赤線労働組合の構想 赤線従業員組合と売春防止法

終章 結論